1

美しい水と豊かな緑

あ ら ま し

北海道の中南部、石狩平野の南端に位置する千歳市は、札幌市や苫小牧市など４市４町に隣接し、札幌市へは北へ40km、ＪＲ快速電車で約30分の至近距離にあります。

市街地の標高は、15m前後の低地となっていて、国内では最も低い25m前後の分水嶺が飛行場の付近にあるほか、江戸期には千歳川などを利用する北海道内部の河川交通の陸上部分・シコツ越えの地として栄えました。

市域の西部は、山岳地帯で国立公園支笏湖地域を形成し、支笏湖を源とする千歳川の沖積地に広がる市街地は、飛行場・空港、工業団地、自衛隊駐屯地・基地などが立地しています。また、東部には、自然豊かな波状丘陵地帯があり、農業が盛んに行われています。

千歳市民の誇りである支笏湖は、約４万年前に支笏火山の大噴火でできたカルデラ湖です。最大水深と貯水量が国内２位、面積が国内８位の大きな湖で、周囲には、世界でも珍しい溶岩円頂丘（ドーム）が北海道の天然記念物に指定された樽前山（1,041m）のほか、昭和47年に開催された冬季五輪札幌大会で滑降競技の会場となった恵庭岳（1,320m）など、1,000m級の山々がそびえています。

また、支笏湖は、昭和62年から始まった環境省の公共用水域水質測定結果において20回も全国１位に輝くなど、高い透明度が自慢で、そこから流れ出る千歳川も、国土交通省による全国一級河川の水質調査で１位を記録したことがあります。

支笏湖には、アイヌの人々がカバチェップ（薄い魚／チップ）と呼ぶヒメマスが生息し、千歳川では、サケマスのふ化・放流が行われています。ヒメマスとサケは、千歳市の魚に指定され、チップ釣りは支笏湖初夏の、また、遡上するサケを捕獲するインディアン水車は設置から120年以上の長きに渡り、千歳川の秋の風物詩として人気を博しています。

千歳市は、太平洋と日本海の気象の影響を受ける分岐点にあり、降水量は道内では少ない地域です。また、夏季の月平均最高気温は

32.8℃程度、年間の平均気温は９℃程度で、避暑地として知られる軽井沢とほぼ同じ内陸型の気候です。

「千歳」という地名は、鶴が多く生息したこの地の自然に由来しており、四季折々に変化する様々な自然環境、優れた都市機能、快適な住環境に恵まれています。



支笏湖畔から樽前山、風不死岳を望む

1　位置と広さ

位置								
方位		町名		経緯度				
極東		東丘		東経	141°	52′	12″
極西		美笛		東経	141°	10′	17″
極南		美笛		北緯	42°	40′	53″
極北		新川		北緯	42°	57′	12″

千歳市役所の位置　東経　141° 39′ 04″　北緯　42° 49′ 18″
広がり　東西　57.20km　南北　30.40km
面積　594.50㎢
隣接市町村　東　由仁町　安平町　西　伊達市
南　苫小牧市　白老町　北　札幌市　恵庭市　長沼町

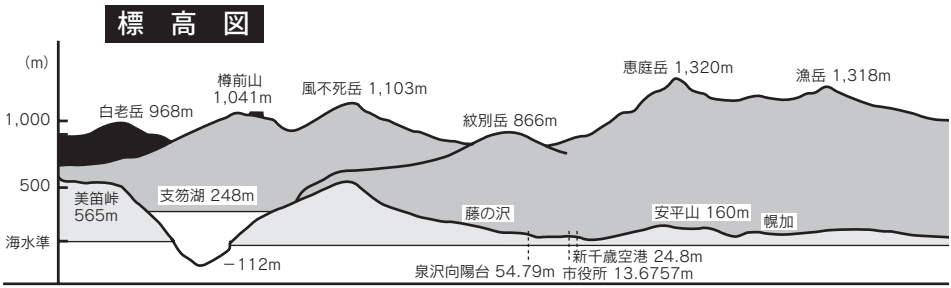
国土交通省国土地理院「令和８年全国都道府県市区町村別面積調」
総務課

2　地目別面積

（単位　ha）

地目	面積			構成比（%）		
	総数	国・公有地	民有地	総数	国・公有地	民有地
総数	**59,450**	**44,726**	**14,724**	**100.0**	**75.2**	**24.8**
宅地	1,837	42	1,795	3.1	0.1	3.0
田	446	—	446	0.8	—	0.8
畑	6,647	454	6,193	11.2	0.8	10.4
山林	31,214	27,492	3,722	52.5	46.2	6.3
原野	3,824	3,789	35	6.4	6.3	0.1
牧場	718	336	382	1.2	0.6	0.6
池沼	9,891	9,881	10	16.6	16.6	0.0
雑種地	3,289	1,569	1,720	5.5	2.6	2.9
その他	1,584	1,163	421	2.7	2.0	0.7

1　令和７年１月１日現在　　※構成比は小数点第二位を調整
税務課



総務課

3　最近５か年の気象

年	気温（℃）			降水量（mm）	雪（cm）		最大風速（m／s）
	平均	最高	最低		降雪の深さの年合計値	年間の最深積雪	
3	8.1	34.1	−23.5	1,051.0	178	27	17.6
4	8.1	31.3	−25.4	1,015.0	320	123	18.5
5	9.0	33.4	−23.0	942.5	150	38	17.1
6	8.7	32.9	−20.0	952.0	238	53	16.3
7	**9.2**	**32.8**	**−19.3**	**908.0**	**220**	**29**	**17.8**

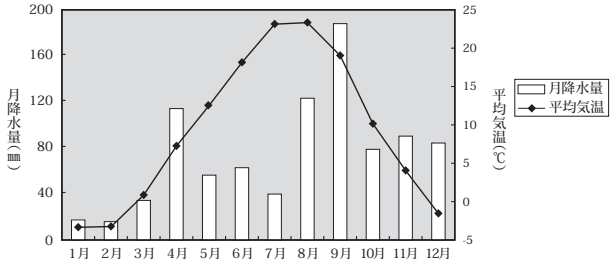
1　降雪の深さの年合計値及び年間の最深積雪は、前年降雪・積雪初日から当該年の降雪・積雪終日までの観測値
新千歳航空測候所観測課
気象庁ホームページ「石狩地方千歳」（環境課）

4　令和７年の気象

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均	気温 ℃	−3.4	−3.3	0.8	7.2	12.5	18.1	23.1	23.3	19.0	10.1	4.0	−1.6
	日最高気温 ℃	1.1	1.8	5.1	12.5	18.6	23.2	27.6	27.8	24.5	15.5	9.5	2.6
	日最低気温 ℃	−8.6	−9.8	−4.1	2.2	6.7	13.9	19.7	19.3	13.5	4.2	−2.0	−7.2
月降水量 mm		17.5	16.0	34.5	114.5	56.5	63.0	40.0	123.5	188.5	79.0	90.5	84.5
極値	最高気温 ℃	5.9	8.2	12.4	19.9	24.2	29.2	32.8	31.6	28.2	24.6	17.3	14.7
	最低気温 ℃	−19.3	−17.9	−11.2	−6.2	0.2	7.9	13.6	14.9	6.1	−4.4	−8.1	−16.8
	最大風速 m/s	12.1	12.8	17.8	15.4	16.2	12.3	11.6	12.5	16.8	11.3	16.7	15.8
	最大瞬間風速 m/s	15.9	17.5	23.7	21.6	22.6	15.4	15.4	17.0	22.6	14.9	23.1	22.1
	降水量 mm	7.0	4.5	14.5	32.0	17.0	31.0	21.0	25.0	74.5	20.0	50.0	22.0
	降雪の深さ cm	9.0	10.0	24.0	—	—	—	—	—	—	—	2.0	30.0
	積雪の深さ cm	15.0	29.0	21.0	—	—	—	—	—	—	—	2.0	37.0
月降雪の深さ cm		46.0	48.0	82.0	—	—	—	—	—	—	—	3.0	67.0

気象庁ホームページ「石狩地方千歳」（環境課）

令和７年の気温と降水量



環境課

6　過去の気象記録

区分	気温		降水量	降雪量	風	
	最高	最低	日最大	日最大	日最大瞬間（風向）	日最大（風向）
年月日	H23.8.11	S41.1.19	S62.8.26	H13.12.11	S49.4.21	S56.8.23
極値	34.2℃	−30.7℃	250.5㎜	60㎝	34.6m/s（南東）	25.5m/s（南南東）

1　昭和63年７月19日までは千歳飛行場、７月20日以降は新千歳空港における観測値を基に参考データとして記載しています（環境課）

7　主な河川・山岳・湖沼

（単位　km）

名称	河川延長	備考
千歳川	100.3	フレ岳～支笏湖～石狩川・普通河川を含む
ママチ川	10.5	
ケヌフチ川	13.7	
祝梅川	4.0	石狩川水系１級河川
長都川	3.8	
ユカンボシ川	5.0	
新ママチ川	0.5	
ナイベツ川	0.5	

（単位　m、㎢）

名称	標高・面積	備考
樽前山	1,041	溶岩円頂丘（那須火山帯）
恵庭岳	1,320	（那須火山帯）
風不死岳	1,103	（那須火山帯）
紋別岳	866	（那須火山帯）
支笏湖	78.4	カルデラ湖
オコタンペ湖	0.4	堰止湖

国土交通省国土地理院「日本の山岳標高一覧－1003山」
「全国都道府県市区町村別面積調」
北海道開発局札幌開発建設部資料（事業庶務課）

市の木　カツラ

昭和61(1986)年４月１日制定



（カツラ科の落葉高木）

昔から交通の手段として丸木舟に使用されるなど交通の要衝千歳と結び付きが深い木です。

また、ユーカラにもうたいこまれ、地名の「蘭越」もカツラの木が多くある所（＝ランコウシ）に由来しているように、蘭越・支笏湖方面にかけて相当数の大木が自生しています。